

研 修 会 報 告

報告日 令和3年7月19日

会 派 名	柏崎の風
報告者氏名	阿部 基、星野 正仁、春川 敏浩、山本 博文、柄沢 均、白川 正志、田邊 優香
種 別	<input type="checkbox"/> 調査研究 (<input type="checkbox"/> 行政視察) <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用 務	鳥獣被害対策研修会「鳥獣被害の現状と対策について」
日 時	令和3年7月13日 (火) 13:00～15:00
場 所 (会場)	柏崎市役所 2階 委員会室
概 要	<p>【講師】 山本 麻希 先生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立大学法人 長岡技術科学大学准教授 ・NPO法人 新潟ワイルドライフリサーチ副代表 ・(株)ういるこ代表取締役社長 ・環境省 鳥獣保護管理プランナー <p>【野生動物の生態と被害対策について】</p> <p>1. イノシシの生態と被害 繁殖特性：増加率が高い（1.64倍） イノシシ被害： ①農作物被害（ほぼ全部水稻被害） ②生活被害、③交通被害、④人身被害</p> <p>2. イノシシの被害対策 野生動物被害対策の3本柱： ①被害駆除、②個体数管理、③生息地管理</p> <p>3. 中型獣類の生態と被害対策 特定外来生物：ハクビシン、アライグマについて</p>
所 感 等	<p>【阿部 基】</p> <p>・柏崎市ではイノシシによる農作物被害が多い、イノシシは増加率（1.64倍）が高く、数を減らす直接防除が必要であるが、狩猟者の減少、高齢化が課題である。柏崎市が取り組んでいる対策として、罠と電気柵があるが、罠から逃げられた個体の再捕獲は約3.9%と低く、技量の高い捕獲者育成が必要、また、電気柵の資材の知識不足、意</p>



識の低下が課題とのことだった。今回の研修を受け、早急のできる対策として、電気柵資材の知識向上を行うべきと受け止めた。

【星野 正仁】

・研修を受けてイノシシの早期の正しい対処、駆除の間違った取り組みを解りやすく説明して頂きました。又今後問題となる、ハクビシン・アライグマの対処法も大変参考になりました。今後問題が大きくなる前に早期の現状調査と対策が必要と思いました。さらに調査をしていきたいと思います。

【春川 敏浩】

・イノシシ被害は、市内全域に分布しているが降雪とイノシシの生息は関連していることを改めて理解できた。個体をいかに駆除するかが問題である。市民の皆様がイノシシに対する知識の醸成が必要と感じた。電気柵や畑作に対する補助金は確立できたが、耕作田の畔の被害補修は現在、補助金はないので今後検討の余地がある。アライグマの生態の動向が現在では、上越から柿崎の間では被害が発生しているので本市でも喫緊の対策が急務であると感じた。

【山本 博文】

・イノシシの生態と被害対策について具体的な対処方法として繁殖率が高いために、被害防除、生息地の管理、個体数の管理を行っていく上で、電気柵や箱わな、くくりわなの正しい設計、施工、管理が重要となる点など大変参考になった。また、今後被害が問題になると予想される特定外来生物であるハクビシンやアライグマの生態、被害対策についても学ぶことが出来たので今後の柏崎市の対策に活かしていきたい。

【柄沢 均】

・増加率が高いイノシシの被害対策においては電気柵などに被害防除を徹底したうえで狩猟や箱罠、くくり罠による捕獲を行わなければならない。特に行政においては防除のためのしっかりとした設計が行われているのか、正しい知識があるのか、確認が必要である。また、新しい脅威である外来種であるアライグマについて、被害が拡大する前に早急に対応を求めたいと思う。

【白川 正志】

・電気柵の設置距離を実績として把握している現状に対する見直しの必要性を痛感した。雑草による漏電対策や設置ノウハウの共有など「管理」が不可欠であり、運用のサポートをセットとした継続的な支援の仕組み化を求めたい。

・アライグマへの危機感を持つ機会となり、近隣の柿崎区の被害状況など広域での情報交換が定期的にできる関係性の確立や「予防」への動きを注視していきたい。

【田邊 優香】

・「イノシシの生態と被害対策について」講習を受け、イノシシは繁殖率が非常に高く、個体数の管理もしっかり行わなければいけないなどよく理解できた。被害を出さない為には、電気柵など使用している罠の管理も非常に重要であることも分かった。自分の住んでいる地域ではイノシシ被害はないものの、近年増えてきている特定外来生物であるハクビシンやアライグマの被害が出るのではないかという事も学ぶことが出来た。講習で学んだことを今後の柏崎市の対策に活かしていきたい。